

KIS 国際物流ニュース！ (2020年6月号)

国際物流業務に役立つ 最新情報をお届け！

国際事情、行政、システム、導入事例、多彩な情報からピックアップ



ドローンを使った配送業務 現在の取組みの一例

ドローンを使った配送業務 近い未来か遠い未来か？ (2019年11月に配信) でUPSの子会社がアメリカ連邦航空局 (FAA) から「ドローンによる配送空路の運用」に関して許可を得たことを紹介しました。FAAはこの許可以降、許可発行に慎重であるといった内容でした。

今回、FAAは医療法人ノバントヘルスに承認を与えたとのことニュースで知りました。ノバントヘルスは、ドローンを活用した医療物資輸送を手掛けるジブライン社の協力を得て、医療関連の物流サービスを開始します。ドローン (グライダーのような形で推進力はプロペラ) は1.8kgの物資を積み160km (100マイル) の飛行可能、目的地あたりで小型パラシュートにぶら下げた物資を投下するそうです。輸送時間の短縮と人が介在しない物流として、新型コロナウイルスへの対応として、人同士の非接触物流であり規制緩和の新技术採用の事例として注目を集めそうです。

日本では国土交通省や経産省が民間企業と実証実験など行っています。ドローンが抱え込める程度の貨物を自律制御で目的地にビーコンを設置し正確に着陸して届ける実験例があります。着陸地点の安全確認はカメラの映像を遠隔で確認し、人がいるようであれば音声で注意するそうです (いがいとアナログ)。物流事業を取り巻く課題の解決、物流困難者、緊急時の物資輸送などの領域で活用が見込まれています。

高度150m以下の空間を飛行空域と想定しているので、見上げれば多くのドローンが飛び交うように光景が見られるようになるかも。楽しみです。

【予定】ウェブセミナー 400社アンケートから成功するテレワークシステムを読み解く

好評のセミナーセッションをウェブセミナーとして提供する準備をしています。冬に行なった働き方改革セミナーのセッション「失敗しないテレワークシステムの条件を400社アンケートの結果から読み解く」をソリトンシステムズ様にご協力いただき配信準備中です。

働き方改革に欠かせない「テレワーク」、総務省のテレワークの6種類のパターン紹介や、テレワークに関するアンケート結果から、成功するための条件を考察します。

準備が整い次第、弊社ホームページやメールマガジンなどでご案内させていただきます。

【予定】セミナー 電子文書管理セミナー (仮称) 準備中！

この春は通関業務のテレワーク環境を提案して参りましたが、課題として文書の電子化が挙げられました。荷主からの紙文書、メールやファックスで入手した情報、さらには商品の外観などの画像情報など、登録が容易でなく活用できていない現状を聞く機会がありました。

そこで、入手した情報の登録、蓄積、申請、活用の一連の業務をご紹介したいと準備しています。

具体的な詳細が決まり次第ご案内しますが、ご興味があるかたはお気軽にお問い合わせください。